

学校名 鈴鹿市立井田川小学校学校長名 大西 依子

令和7年度 校内研究実施計画書

I 研究主題及び教科領域

研究主題

研究主題	聴き合い、伝え合い、主体的に学ぶ子どもをめざして ～「わかる！」授業づくりと安心して学び合える学級集団づくりを通して～
教科・領域	算数

II 主題設定の理由

(1) 今年度の研修に至るまでの流れ

本校では、「聴き合い、伝え合い、主体的に学ぶ子どもをめざして～「わかる！」授業づくりと安心して学び合える学級集団づくりを通して～」という研究主題を掲げ、算数科を通して研究を進めてきた。主題に迫るための取り組みとして、授業でのICTの効果的な活用方法を模索しながら、協働的な学習も重点取り組みとして進めてきている。成果としては次のようなものが挙げられる。

課題に対して、自分の考えがまとまらないときに場の提供を行うと友だちのところへ行き、進んで友だちの考えを聴こうとする姿が増えてきた。また、ICT、ペア活動、グループ活動を授業の中に取り入れることによって、理解が難しい児童も考えることに前向きに参加できることが多くなってきた。

自分の考えを他者に伝えたり、説明したりすることについては、ペア活動や小グループを取り入れたことも功をなし、協働的な課題を意識することによって、グループ学習に前向きに参加する児童の姿が見られる。高学年になるにつれ、ICTを活用しながら、文章を作ったり、自分なりの考えを持ったることができる児童も増え、自分の考えを伝えたいという思いをもつ子も増えてきている。

主体的に学ぶことについては、課題設定の工夫により、「今までとちがうけれど、どうやってするのだろうか」「自分の考えとはちがうけれど、なんでそうなるのだろうか」など、子どもたちの主体的な学びにつながる場面が多く見られた。また、学習した内容で興味があるものに関しては、休み時間に話をしたり、自主学習でより深く調べてきたりする姿も見られた。

このように、昨年度までの研究では一定の成果を得ることができた。しか

し様々な課題や子どもたちの気になる姿も明らかになっている。

聴き合うこと、伝え合うことに関しては、自分の考えを伝えることはできても、互いが意見交換することで終了し、そこから新たに話し合っただけ仲間とともに考えを発展させるところまでは至っていない。また、先に発言した児童の意見に流されやすく、そこから自分の主張をしようとする積極的な姿があまり見られないといったこともある。自分の考えは間違っているかもしれないと恐れることなく、自分の考えを発言する自信を持たせたい。そのため、学校生活のあらゆる場面において、児童の自己肯定感を高めることについても意識して取り組んでいく。

主体的に学ぶことに関しては、学習定着度に差があることや、授業者による授業展開が上手くいかなかったりすることで、全員が意欲をもって取り組む学習が難しくなる場面があった。協働学習の中で、子どもたちが意欲的にやる気が起こるような課題の工夫や、教師の出場によって子どもたちが主体的に学べるよう様々な児童の反応を想定して授業に臨むようにしていく。そして、具体的な子どもの姿として、根拠を基に自ら考え、判断・決定する（自己決定する）、子どもの育成に取り組む。

また、みえスタディ・チェックにおいて、学習から時間の経過した学習内容の定着が難しい児童の実態がはっきり見えてきた。そこで、夏の研修でドリルパークの問題の検証を行い、本校の児童の弱みにあたる部分の底上げを図る問題の研修を行った。家庭学習において、児童のやる気を起こすような課題名をつけ、夏の研修で厳選したドリルパークの問題を頻繁に出し、本校の弱みにあたる部分の学力の定着を図っている。

昨年度までの研究成果を活かしつつ、本年度も研究主題を「聴き合い、伝え合い、主体的に学ぶ子どもをめざして～『わかる！』授業づくりと安心して学び合える学級集団づくりを通して～」と設定し、算数科の授業を中心に、基礎基本の定着と子どもの「分かった！」「できた！」につながる授業づくり、安心して学び合える学級集団づくりの研究を進めていきたい。

（２）主題について

〈聴き合うことについて〉

聴き合う関係とは、発表している人が何を伝えたいのか、何に疑問を感じているのかなどを、話し合いの際にしっかりと聴くことができる関係であると考えている。また、子どもに困り感があるときに、わからないことを「教えて」と相手に聞いたり、また相手がどこでどのように困っているのかを聴いたりすることができる関係とも考えている。

〈伝え合うことについて〉

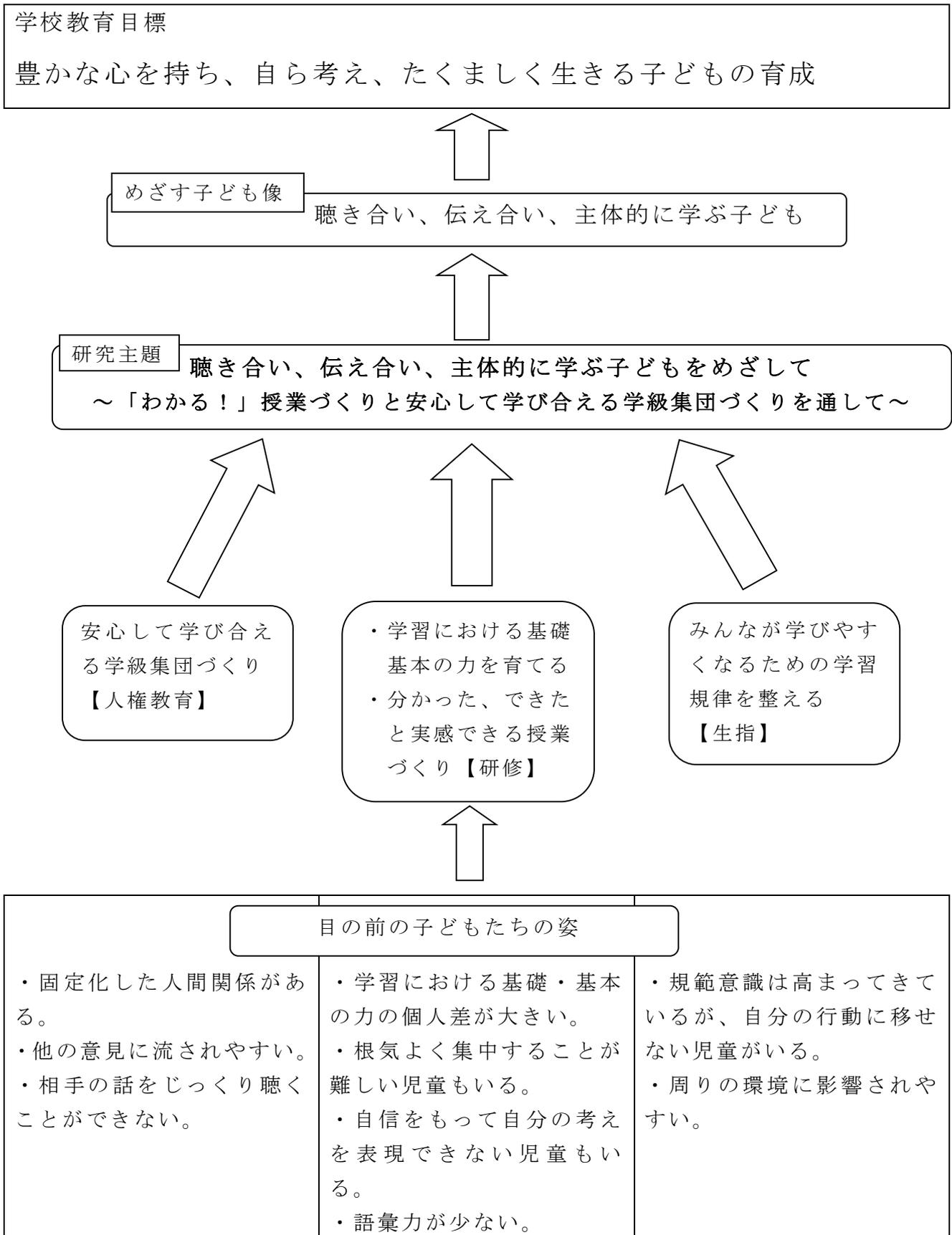
伝え合う関係とは、相手のことを思いやり、自分の考えや感情を互いに知らせることができる関係と考えている。一方的に考えや思いを話すのではな

く、自分の伝えたいことが正確に伝わることをめざしていく。

〈主体的に学ぶことについて〉

主体的な学びとは、学ぶことに興味や関心を持ち、わからないことは「わからない」と表出でき、見通しをもって粘り強く取り組み、さらに難しい課題や新しい課題に挑戦しようとする姿が現れるようなものであると考えている。

IV 研究構想図



年間計画

一 学 期	<p>4月</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究主題設定 副主題設定 研究主題設定の理由、研究内容及び指導の重点 協議 指導案作成について共通認識 <p>5月</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学年 年間指導計画 単元構想 作成 (カリキュラム・マネジメント 実践) 学調及びみえスタディ・チェックの自校採点・分析 <p>6月～7月</p> <ul style="list-style-type: none"> 学年部授業参観 (『ちょこっと参観』)
夏 季 休 業 中	<p>7月</p> <ul style="list-style-type: none"> 市教委等主催研修への参加 <p>7月25日</p> <ul style="list-style-type: none"> 夏季校内研修会 「 」講師招聘 学調・みえスタディ課題内容への取組進捗状況交流 人権レポート研修会 環境整備 市教委等主催研修への参加
二 学 期	<p>9月</p> <ul style="list-style-type: none"> 学調分析 カリキュラム・マネジメント見直し <p>9月26日</p> <ul style="list-style-type: none"> 4年 研究授業 講師招聘 (事前検討会 事後検討会) <p>11月6日</p> <ul style="list-style-type: none"> 3年 研究授業 講師招聘 (事前検討会 事後検討会)
三 学 期	<p>1月</p> <ul style="list-style-type: none"> 成果と課題 まとめ 年間指導計画の見直し カリキュラム・マネジメント見直し <p>2月</p> <ul style="list-style-type: none"> みえスタディ・チェックの自校採点・分析 <p>3月</p> <ul style="list-style-type: none"> 紀要作成 次年度に向けての準備